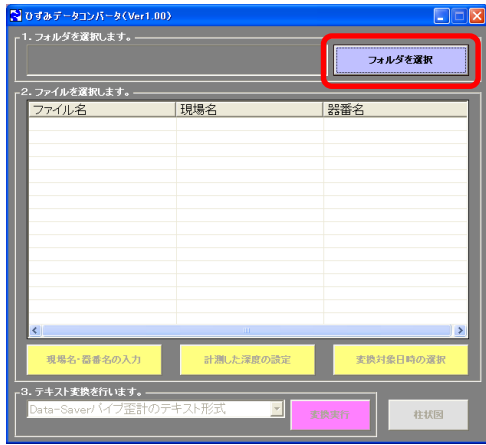


## 1. ひずみデータコンバータの起動

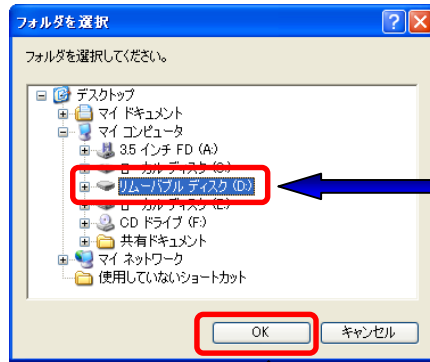


デスクトップ上のアイコンをクリックします。

## 2. フォルダの指定

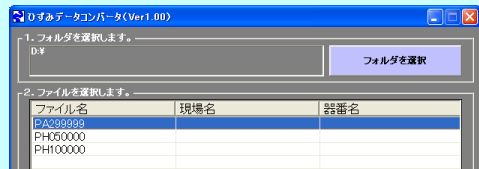


「フォルダを選択」



CFカードをパソコンに挿入した時、WindowsがCFカードに割り当てたドライブを指定します。CFカードがDドライブに割り当てられた場合はDドライブを選択します。

ドライブを選択後、「OK」をクリック



ドライブが選択され、CFカード内のファイルを一覧表示。

メモリー付ひずみ測定器からCFカードを抜き取り、ご使用のパソコンに挿入します。  
「フォルダを選択」ボタンをクリックします。  
フォルダの画面が表示されます。  
一覧中より選択するフォルダを指定します。

## 3. ファイルに情報を設定



一覧中より処理を行うファイルを指定します。  
現場名・器番号を入力する場合は「現場名・器番号」ボタンをクリックします。  
計測したデータに深度を設定する場合は、「計測した深度の設定」ボタンをクリックします。  
計測したデータから変換対象のデータを選択する場合は、「変換対象日時を選択」ボタンをクリックします。



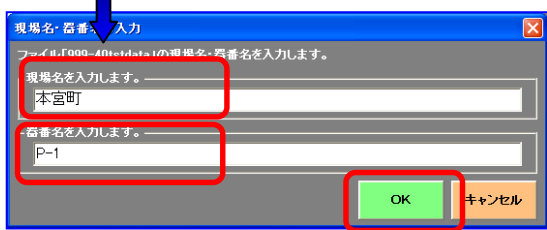
変換対象のデータを選択します。チェック有りの状態が変換対象です。

「OK」ボタンをクリックすると、選択状態をCFカード内のファイルに記録します。

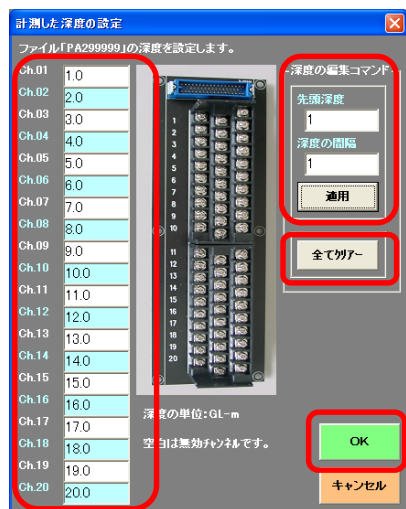
「現場名・器番号」

「計測した深度の設定」

現場名入力エリアに現場名を入力します。器番号入力エリアに器番号を入力します。



「OK」ボタンをクリックすると、入力した現場名・器番号をCFカード内のファイルに記録します。



「先頭深度」と「深度の間隔」を指定後、「適用」ボタンをクリックすると、チャンネル1から一括で深度の入力が行えます。

「全てクリア」ボタンをクリックすると、全ての深度を空白状態にします。空白は無効チャンネル・未使用チャンネルを意味します。

「OK」ボタンをクリックすると、深度の設定をCFカード内のファイルに記録します。

チャンネル1から順番に深度を入力します。

40チャンネルのユニットを使用した場合は、40チャンネル用の設定画面が表示されます。ターミナル測定の場合は、ターミナル測定用の設定画面が表示されます。

4. 変換実行



一覧中より処理を行うファイルを指定します。  
変換する書式を指定します。  
変換を行うには、「変換実行」ボタンをクリックします。

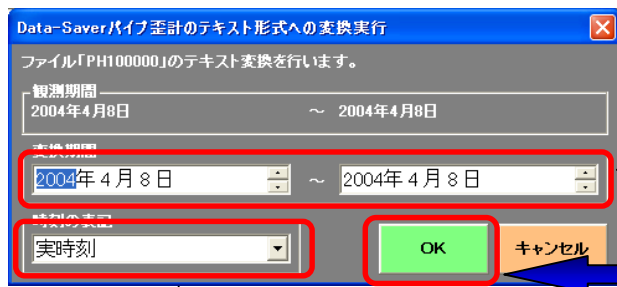
変換可能な書式

Data-Saver パイプ歪計のテキスト形式・・・Data-Saver で読み込めます。  
GGRAPH パイプ式歪計のテキスト形式・・・GGRAPH で読み込めます。

Data-Saver は「国土防災技術株式会社」製のソフトウェアです。  
GGRAPH は「五大開発株式会社」製のソフトウェアです。

「変換実行」

「Data-Saver パイプ歪計のテキスト形式」の場合



変換期間を指定します。  
データ中から変換期間のデータを抽出して出力します。

「OK」ボタンをクリックします。

変換先のファイルを指定します。



時刻の表記の指定

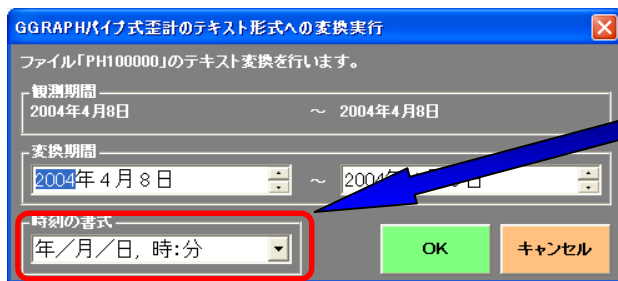
「YYYY/MM/DD HH:FF」の「HH:FF」の部分

「00:00 固定」・・・時刻の表記を 00:00 固定にします。(「2004/01/01 00:00」等)

「12:00 固定」・・・時刻の表記を 12:00 固定にします。(「2004/01/01 12:00」等)

「実時刻」・・・実際に測定を行った時刻を表記します。(「2004/01/01 12:56」等)

「GGRAPH パイプ式歪計のテキスト形式」の場合



時刻の表記を指定します。

「年/月/日」・・・(「2000/01/01」等)

「年/月/日, 時」・・・(「2000/01/01, 11」等)

「年/月/日, 時:分」・・・(「2000/01/01, 11:30」等)

値の定義

ユニット測定を行ったデータ

N 値 = メモリー付ひずみ測定器で測定した値

R 値 = N 値 × - 1

ターミナル測定を行ったデータ

N 値 = メモリー付ひずみ測定器で測定した値 ( ノーマル値 )

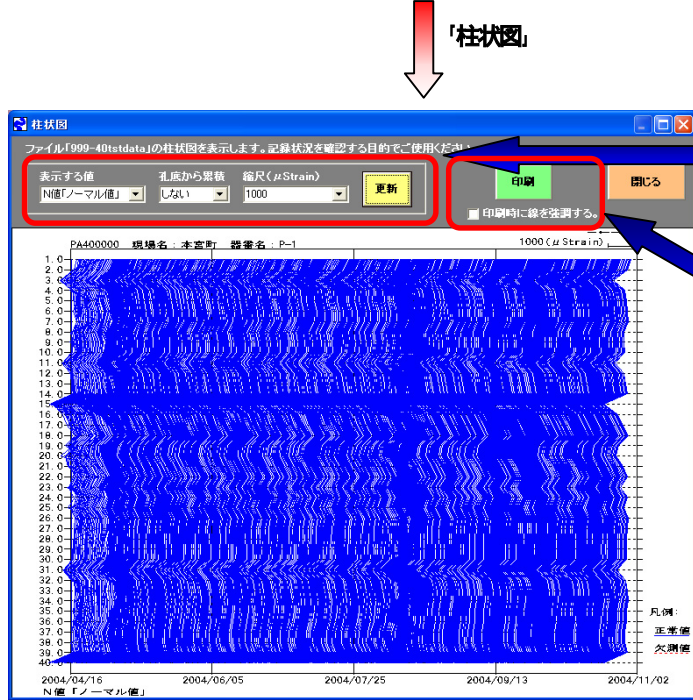
R 値 = メモリー付ひずみ測定器で測定した値 ( リバース値 )

5. 柱状図



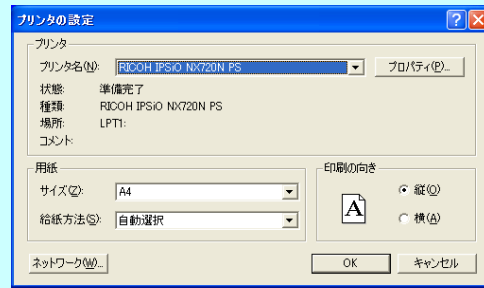
一覧中より処理を行うファイルを指定します。  
「柱状図」ボタンをクリックします。

柱状図は、記録状況を確認する為のものです。



「表示する値」「孔底から累積」「縮尺」を変更することができます。  
「更新」ボタンをクリックすると、指定した条件で柱状図を表示します。

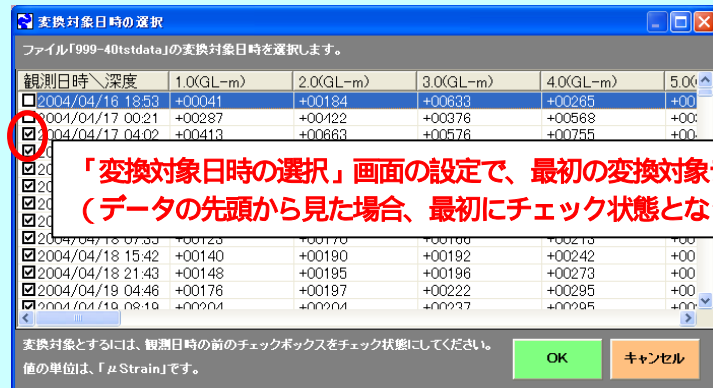
「印刷」ボタンをクリックすると柱状図の印刷が行えます。



ご使用のプリンタによっては、線がかすれて印刷される場合があります。この場合は、「印刷時に線を強調する」チェックボックスをチェック状態にして印刷ください。

柱状図に表示する値

初期値からの変化値を計算して表示します。



「変換対象日時の選択」画面の設定で、最初の変換対象データを初期値とします。  
(データの先頭から見た場合、最初にチェック状態となっているデータ。)

表示する値の定義

ユニット測定を行ったデータ

N 値「ノーマル値」= メモリー付ひずみ測定器で測定した値

R 値「リバース値」= N 値 × - 1

$(N \text{ 値} - R \text{ 値}) / 2 = N \text{ 値} \cdot R \text{ 値より計算した値}$

ターミナル測定を行ったデータ

N 値「ノーマル値」= メモリー付ひずみ測定器で測定した値 (ノーマル値)

R 値「リバース値」= メモリー付ひずみ測定器で測定した値 (リバース値)

$(N \text{ 値} - R \text{ 値}) / 2 = N \text{ 値} \cdot R \text{ 値より計算した値}$

孔底からの累積

「孔底から累積」で「する」を指定した場合は、孔底からの累積を計算して表示します。

グラフ縦軸の深度は、「測定した深度の設定」画面で設定した深度を表記します。